

第1回四国圏広域地方計画協議会 議 事 要 旨

平成20年10月6日（月）14:00～15:30

かがわ国際会議場（高松市サンポート2-1）

1. 開 会

○四国圏広域地方計画推進室長（油谷）

本日は、ご参集いただきましてありがとうございます。

只今から、第1回四国圏広域地方計画協議会を開催させていただきます。

構成員の皆様方には、ご多忙のところご出席を賜り、誠にありがとうございます。本日の進行役を務めさせていただきます四国圏広域地方計画推進室長の油谷でございます。よろしくお願いいたします。着席して進めさせていただきます。会長選出までの間は私が進行役を務めさせていただきますので、よろしくお願いをいたします。

なお、本日の会議につきましては、公開とさせていただいておりますので、よろしくお願いをいたします。

ご出席の構成員の皆様のご紹介についてでございますが、お手元の出席者名簿と配席図にてご紹介にかえさせていただきますので、よろしくお願いをいたします。

なお、本日は構成員総数29名のうち26名、うち代理出席の方が6名でございますが、以上の出席があり、2分の1以上の出席となりましたので、四国圏広域地方計画協議会規則第5条により、本日の会議は成立していることをご報告いたします。

はじめに、本日はオブザーバーとして国土交通省より谷口技監、幾度大臣官房審議官、福島広域地方計画課長の3名が参加されております。ここで、国土交通大臣のご挨拶を予定しておりましたが、公務のため欠席されておりますので、代理といたしまして谷口技監よりあいさつの代読をお願いしたいと思います。よろしくお願いをいたします。

○国土交通省技監（谷口）

国土交通省の技監を務めております谷口でございます。今、司会の室長の方からお話いただきましたように、金子大臣の挨拶を預かってまいりましたので、代読をさせていただきますと思います。

本日、四国圏広域地方計画協議会の第1回会議が開催されるに当たり、一言ご挨拶申し上げます。

ご出席の四国地域の各県、市町村、経済団体などの皆様には、平素から国土交通行政の推進に格段のご支援、ご協力を賜っており、心から御礼申し上げます。また、皆様には四国圏の広域地方計画の策定に多大なるご尽力を頂いており、重ねて御礼を申し上げる次第であります。ご承知のとおり、我が国の国土政策の基本指針となる国土形成計画につきましては、本年7月に全国計画を決定したところであります。全国計画は本格的な人口減少社会の到来や急速な高齢化、アジアの経済発展などの時代の潮流の中で、広域ブロックが東アジアをはじめとする諸

地域との交流、連携を進めつつ、その有する資源を最大限に活かした特色ある地域戦略を描くことによって、地域の成長力を高め、多様な各ブロックが自発的に発展する活力ある国土の形成を図ることを基本方針としております。そして、これにより一極一軸型構造の是正を図っていくこととしていますが、広域地方計画はまさにこうした新しい国土像を具体化するものとして策定されるものであります。広域地方計画の策定に当たっては、これまでも四国圏プレ広域地方計画協議会で精力的な検討をいただいていたところではありますが、本日スタートするこの協議会においても、皆様方の更なるご協力をいただき、また市町村をはじめ多様な意見を聞いて、地域が抱える困難にも正面から向き合い、地域の特長を生かしながら、地域への明るい希望を抱くことのできる計画にしていきたいと考えています。

四国圏は、面積の約75%を占める森林や全国でも類を見ない清流など、豊かな自然環境があり、魅力あふれる食材や四国八十八カ所など貴重な産物や文化資産に恵まれています。また、炭素繊維や電子機器関連素材など世界的視野を有するナンバーワン企業やオンリーワン企業なども見られ、大きな発展のポテンシャルを有する圏域でもあります。一方で、発生が危惧される東南海・南海地震、深刻な水不足などへの対応も求められています。

こうした中で、四国の直面する課題に対応するとともに、四国の強みを生かし、瀬戸内海を挟んだ中国圏をはじめとする他圏域との連携を図りながら熱心な議論を通じて、四国の今後の発展のためのビジョンを描いていただけるよう、関係各位のご尽力をお願いしたいと存じます。国土交通省としてもご出席の皆様方とともに、より具体的な未来を展望した計画づくりに努力してまいりますとともに、計画の具体化に対してもハード、ソフトの両面で、地域の実情を踏まえた支援を行っていく所存であります。

最後に、本日ご出席の皆様方のますますのご健勝と四国圏の一層の発展を祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。平成20年10月6日、国土交通大臣金子一義。

代読でした。ありがとうございました。

2. 議 事

1) 会長及び会長代理の選出について

○四国圏広域地方計画推進室長（油谷）

それでは、お手元にございます議事次第に沿って進めさせていただきます。

まず、議事の1つ目でございますが、四国圏広域地方計画協議会の会長及び会長代理の選出につきまして、ご説明をいたします。

協議会会長につきましては、協議会規則第4条の2の規定に基づき、協議会構成員の互選により選出して頂くこととなっております。それでは、ご推薦があれば賜りたいと思います。お願いいたします。

○香川県知事（真鍋）

香川県知事真鍋でございます。この広域地方計画は我々にとって大変重要な計画であると思っております。今後10年間の四国の方向性を示す計画でもございますし、また国の出先機

関あるいは四国4県、それから経済団体が一緒になって協働して作っていくことが必要であると思っています。このように、四国全体にわたる計画策定の取りまとめ役でございますので、是非とも、四国経済連合会の大西会長が私は適任であろうと思います。大西会長様、大変お忙しい中恐縮ですが、是非この協議会の会長としてご就任していただきたいと思いますので、推薦をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○四国圏広域地方計画推進室長（油谷）

ただいま真鍋香川県知事から四国経済連合会大西会長を協議会会長にというご提案がございましたが、皆様のご意見はいかがでございましょうか。

（一同「異議なし」と呼ぶ）

○四国圏広域地方計画推進室長（油谷）

ご異議がないようでございますので、四国経済連合会大西会長に協議会会長をお願いしたいと思います。それでは、大西会長におかれましては、会長席へご着席いただけますようよろしくお願いいたします。

引き続きまして、協議会会長代理につきましては、協議会規則第4条の4の規定に基づき会長があらかじめ指名することとなっております。それでは、大西会長からのご指名をお願いいたします。

○四国経済連合会長（大西）

はい。ただいま協議会会長を拝命いたしました、四国経済連合会の大西でございます。

会長代理につきましては、四国地方整備局の木村局長を指名いたしたいと思っております。

○四国圏広域地方計画推進室長（油谷）

ありがとうございます。それでは、会長代理は四国地方整備局木村局長とさせていただきます。それでは、木村局長には会長代理席へご着席いただけますようよろしくお願いいたします。

以上をもちまして協議会会長及び会長代理の選出が終了いたしました。

それでは、大西会長より一言ごあいさつをお願い申し上げます。

○四国経済連合会長（大西）

四国圏広域地方計画協議会会長に先ほど指名・選出をされました四国経済連合会会長の大西でございます。よろしくお願いいたします。

さて、四国圏広域地方計画の策定に向けましては、これまでに四国圏プレ広域地方計画協議会を初め、学識者会議、シンポジウムなどを開催し、検討が進められてきたと伺っております。そして、7月4日の国土形成計画全国計画の閣議決定を受けまして、四国圏広域地方計画協議会が設置され、本日、第1回目の会議の開催となったところでございます。これまで積み重ねていただいた議論を踏まえ、今後、計画の策定に向けて本格的に協議を進めてまいりたいと思っております。

四国は、ご承知のように全国に先駆けて人口減少や高齢化社会が急速に進行していることに

加えまして、社会基盤整備の遅れや、東南海・南海地震対策への対応といった厳しい課題を抱えております。その一方で、四国には豊かな自然や農水産品、四国遍路に代表される独自の歴史・文化があり、産業面でも日本一・世界のシェアを持つ企業がたくさんございます。今回の広域地方計画は全国各圏域で一斉に策定されるものであり、今後の地域づくりを競うことにもなりますので、こうした四国の特性や強みをいかに生かすかの知恵が問われます。そして、その実現に向けては四国4県が連携するとともに、行政、住民、経済界など幅広い層が参画して取り組むことが重要になると思います。また、瀬戸内海を挟んで中国圏を初めとする他の圏域との観光、産業、防災などの分野での広域的連携も、四国の今後を考える上で重要な視点であります。

このような点を踏まえつつ、本協議会では新たな四国の目指すべき方向と、その実現のために四国が一つになって重点的に取り組むプロジェクトなどにつきまして、皆様の忌憚のないご意見をいただきながら検討してまいりたいと思います。時代環境が大きく変化する中で、活力ある新たな四国の実現に向けて協議会会長の大役を務めてまいる所存でございますので、皆様のご協力をよろしくお願いを申し上げます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2) 四国圏広域地方計画中間整理（案）について

[事務局より四国圏広域地方計画中間整理（案）について説明]

3) 広域プロジェクトの意見交換

○四国経済連合会長（大西）

それでは、ただいま説明を申し上げました内容に基づきまして、意見交換に入りたいと思います。ご意見、ご指摘などございましたら、どしどしお寄せいただきたいと思います。

○香川県知事（真鍋）

香川県知事でございます。今日は、国土交通省から谷口技監においでいただき、ご挨拶を頂きましてありがとうございます。四国4県は、いろんな地域の問題や課題を抱えているわけですが、この中間整理（案）を聞かせていただきまして、ここまでよく整理していただき、いろんな論点が整理をされていることについて、感謝申し上げたいと思います。一緒になって、やはりこれから考えていかないといけないという思いをさらに強くしたわけでございます。

私からは、やはり広域観光が、何といても四国は、これからのことを考えますと大事なのではないかなと感じているわけでございます。整理案にもありましたけれども、すぐれた自然景観とか豊かな自然を持っているわけでございますし、また食べ物のほうも4県それぞれ特色のあるおいしいものがたくさんあるという状況でございます。あるいは現代アートとか、いろいろなアートもございまして、そういう意味で癒しの空間とか、そういう観点からも非常にいいんだろうと思います。

残念ながら、まだちょっと広域的な連携による観光ルートの開発という面では、四国観光立県推進協議会ができていますが、具体的な取り組みがもう一步遅れているかなという感じがいたしております。これから4県共同でいろいろと観光ルート、広域の観光ルートを設定をしていくということが大事ではないかと思っております、この点に特に力を入れて考えていきたいと思っております。また、先般、四国遍路の世界遺産登録の件は、ちょっと残念だったですけども。今回は見送りになったのですが、ただ、この世界遺産登録のために何をやらないといけないかという点では、かなり論点が整理をされて一步前進をし、高い評価が与えられたということで、今後、また4県が連携して着実に進めていきたいと思っております。そういう意味で、この広域観光についてしっかりやっていきたいと思っております。

その為には、やはり前にも申し上げたのですが、本四架橋の料金です。この度は、半額割引とかいろいろな割引制度を導入して頂いて、本当にありがとうございました。国土交通省を初め、関係者の皆様に感謝申し上げます次第でございます。我々もせっかく、この料金割引制度ができましたので、これを活用しまして、どんどんこの四国の中へ多くの人に来てもらえるように、いろいろなプロジェクトをやって呼び込んでいきたいと思っておりますが、更にこれが拡大をされ、また永続化できたらいいなということで、これからまた4県を含めて知恵を絞っていききたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

とりあえず私からは、以上のコメントをさせていただきます。ありがとうございました。

○徳島県知事（飯泉）

徳島県知事の飯泉でございます。谷口技監を初め、国土交通省から大勢の皆様においでをいただきまして、本当に歓迎を申し上げたいと思います。

私のほうからは、5点申し上げたいと思います。

ただいま真鍋知事からもお話がございました。本四料金を初めとする高速料金の値下げの話についてであります。我々四国にとりましては、この3つの橋あるいは高速道路、この料金が特に高過ぎるのではないかということが、これまでの大きな課題であった訳であります。どうして四国だけが差別をされるのか、一国二制度の悪い例であると、このように申し上げてきたところではありますが、昨年からご高配をいただきまして、社会実験という形を行っていただいております。しかも、今回ピンチをチャンスにということで、この原油、原材料の高騰という中で、高速道路あるいは橋の料金を下げることが、今、着手をされてきております。先ほども、全体計画の中で社会実験として進めていくのだというお話を頂きました。今の料金の引き下げ体系も1年間というお話を頂いております。しかし、我々としては、四国が本当の意味で日本の仲間入りをするとそういう言い方をさせていただきますが、そうなるためには、やはりここの通行料金、今の体系をそのままより拡充をしていただく、あるいは恒久化をしていただくと、こうしたものをしっかりと計画の中に位置づけていただくことが必要ではないだろうか。ちょうど、今日、ここへ出てくる前に予算委員会を見てまいりました。ここで金子大臣のからも、この高速道路の料金の引き下げといった点について地方発で、そしてこれからも更に踏み込んでやっていくのだと、こうしたありがたい決意表明を頂いたところでありますので、

是非ともこの点については、ご高配をいただきたい第1点であります。

次に第2点目として、四国の社会資本整備、これを効率的に活用していったらどうであろうかということでもあります。先ほども表にありましたように、四国には4つの空港、また、それぞれに港湾、そして高速道路がどんどん整備をされつつあるわけでありまして。これをばらばらにということではなく、それを複合一貫的に考えていく必要があるのではないだろうか、このように考えております。特に、例えば徳島の例を申し上げたいと思いますが、四国横断自動車道、ちょうど鳴門から南に向かって、もっと言いますと徳島道とも実は結ばれていないというのが、本県の非常に大きな痛手のところとなっております。しかし、この四国横断自動車道が今、着々と整備を行ってきて頂いているところでありますし、また徳島小松島港の沖州の外貨につきまして、今回、直轄事業という形で概算要求に入れていただいております。南海地震また東南海地震のときの拠点ともなる訳でありますし、また本県の場合には、ちょうど長距離フェリーが唯一立地をしております。東京から徳島そして北九州というルートになっている訳であります。ここも徳島だけの荷ということではなくて、例えば古紙が運ばれてまいりますと、これが四国中央市の製紙工場の方に運ばれ、そして製品化された物が、また徳島港から出ていく。また高知の方からは製材が、そしていろいろな車両関係は香川の方からという形で、実は四国4県の東京あるいは北九州への積み出し港ともなっております。ここと四国横断自動車道、徳島東インターチェンジとのドッキング、さらにはここも精力的に整備をしていただいております徳島空港の2,500m化、いよいよ平成22年度の供用開始が迫ってまいりました。この3つ、陸、海、空の拠点がほぼ同心円のところにある、しかも近くにあるということでもありますので、こうしたそれぞれの既存のインフラをうまくリンケージをさせていく、そうした施策というものは是非とも位置づけて頂きたいなど、このように考えております。

次に3点目として、ここは真鍋知事もおっしゃいました。やはり四国の場合には観光で大いに売っていく必要があるのではないかと。また一方で、九州がまとまった形で九州ブランドとして、中国を初め東アジア、東南アジアに売り出しをしております。今、くしくも国を挙げて2010年まで、“ようこそジャパン”ではありませんが、この観光戦略、観光立国を目指していく、ビジット・ジャパン・キャンペーンを展開中でありまして。そこでちょうど10月1日から観光庁がスタートをされました。そうなるまで、この中で具体的な施策として全国に観光圏を整備していこうと、そして四国の中では徳島がちょうど「にし阿波観光圏」という形で選定をいただきました。そのいよいよ実施整備計画の方がスタートをしていくということになってまいります。先ほどご説明を頂きましたように、四国の特色としては四国4県とJR四国が四国観光立県推進協議会というものを組んでおりまして、こうした中で先ほどのお遍路この点などもいろいろ取り組みを進めておりますので、是非ともこうした四国4県が、民間と一体となった観光戦略といったものを強力に四国ブランドとして売り出せるような、そうした観光戦略を是非ともこの計画の中に入れて頂ければと、3点目として思うところであります。

次に4点目、これはご説明を頂きました情報ネットワークの整備、これを本県の上勝町を例として引き合いに出していただいたわけでありまして、この情報通信基盤、道路、鉄道と並んで第3の社会資本整備と、このように言われているわけでありまして。特に、都市部と地方部と

のデジタル・ディバイド、この解消がこれも国策として掲げられております。また、2011年の7月24日テレビが大きく変わるということで、アナログからデジタル放送へ変わっていく、通信と放送の融合であります。こうなるとまいますと、地方部がこのデジタル化について、大変ハンディキャップを負っていることがよく言われるわけであります。しかし、徳島の場合にはこのデジタル放送への対応をしっかりとしていこうということで、全県をケーブルテレビ、光ファイバーで結んでいくことを進めておりまして、先ほどご紹介をいただきました上勝町におきましても、(株)いろどりを行う最高齢93歳のご婦人から4世代にわたってということをやっているわけでありますが、その家庭をすべて光ファイバーで今、結んでいるところであります。また、今年の11月7、8、9日と、このICTの日本最大のフェスタであります地域ICT未来フェスタが徳島県で開催をされ、特に徳島らしさを出すということで、この上勝町をはじめ、中山間地域でこそ光ファイバーが整備をされている、この点を全国のユーザーの皆さんにも知っていただくという形で、そしてユビキタス社会が逆に中山間地域の活性化の大きな起爆剤になるのだと、こうしたものを大いに四国から情報発信をしていきたいと、このように考えているところであります。特に、限界集落というものも大きな問題となっている中で、その限界集落が一番高いのが四国であると、これを何とか打破をしていく、またその活性化のための新たな社会資本整備、これこそがこの情報通信のネットワークであると、このように考えておりますので、この点につきましても、モデルという形ではなく四国としてこれを整備をしていくのだ、もう一步踏み込んだ形で計画に記して頂ければありがたいと思うところであります。

そして、最後5点目であります。ここでひとつお願いであります。先ほど、ご説明のございました瀬戸内フィールドミュージアム、大変すばらしい構想であります。実は徳島県がこの中に入っておりません。徳島県の鳴門が入っている国立公園の名前はなあと問われますと、瀬戸内海国立公園であります。こうなるとまいますと、先ほどクルーズの例も出ておりましたし、またミュージアムということでは大塚国際美術館もあるわけでありまして、こうなるとまいますと、ちょうどこの瀬戸内海国立公園のエリアをできれば対象にして頂ければ、よりパワーアップできるのではないだろうか、ここはご検討を是非お願いをいたしたいと思っております。

以上、5点でありますよろしくお願いをいたします。

○高知県知事（尾崎）

高知県知事でございます。本日のこの中間整理でございますけれども、非常によくまとめておられまして、短い時間にもかかわらずここまでまとめられたことに敬意を表したいと思っております。また「癒やしと輝きのくに」というのは、なかなかうまく言ったもんだなと思ひまして、非常にわかりやすい表現ではないかと、そのように思っております。先ほど香川県知事と徳島県知事がおっしゃいました高速道路料金の問題や、さらに8の字ネットワークという問題もそもそもあるかと思ひますし、また四国4県で対外的に売っていくような観光圏、観光戦略の整備という点、全く同感でございます。これに加えまして、私の方から追加的に申し上げさせていただきたいと思ひている点を幾つかお話をさせていただきたいと思ひます。

まず、この四国圏域の強みと弱みの分析をしておられるわけでございますけれども、この中で弱み、10番目として人口減少による国土の荒廃・喪失という点がございまして。この点が今後の四国の生き方を考える時にも、非常にポイントの中のポイントとなるのではないかと私は思っております。そもそも険しい地形の中で人口が減少していく、高齢化が急激に進んで行く、この中で安全・安心を確保していくということが、どういうことかということを本当に現実に即して想像をたくましくしていかないといけないのではないかと思います。つまり、中山間の山の中で高齢者でいらっしやって、かつひとり暮らしとか、ご夫婦だけで住んでおられるような方、こういう方々がどんどんどんどんこれから10年、20年、30年と増え続けていく訳ですね。こういう人々がいる中でその社会福祉をどうやって確保するのか、安全・安心をどうやって確保していくのか、これを想像力をたくましくして考えていかなければならないといけません。そう言いましたときに、8の字ネットワークのような大きな幹線道路と共に、中山間地域においても1.5車線の道路とかいう形で財政的な効率化も図っていきながら、小まめな地方のインフラ整備というのを着実に進めていかなければならないという風に思います。つまり、こういう方々は公の助けがないといけない訳ですね、しかも機械力がないと、自力で体力でというわけにはいかない訳です。すると、やはりそういうインフラの整備というのが何としても必要ということではないのかなという風に思っております。道路は公共財でありますから、本来はそういう公の力を必要としているところにこそ道路の必要性というのはいかにあるんだということ、これを改めて原点に立ち返って、単なる効率主義だけであってはいけないということをお願いしておきたいと思っております。実際のところ道路の整備、例えば本県は災害によって年間延べ1万5,000時間の通行止め時間があるわけでございます。1日延べ41時間ということでございまして、こういう状況の中で本当に今後も社会福祉を維持できるのかと、やはり道路を整備していく、それに伴って通行止めがなくなっていく、それによって安全・安心を常に皆さんが確信できるような状況をつくっていく、こういうことも大切ではないのかなというのが第1でございます。

それから、第2点目といたしまして、今度はちょっと趣が違ってくるかもしれませんが、医療の問題についてお話をさせていただきたいのですが、広域プロジェクトの地域医療子育て支援プロジェクトというのがございます。ここの中で、交通条件や地理的条件などに恵まれない地域において、地域医療を支えるために医療従事者の確保に努めるという表現がございます。そして、その右側のグラフの方で人口10万人当たりの医師数ということで、恐らくこれは全国的に見ても全国平均に比べて随分医師の数は多いと、ただ地域別に偏在をしているということを書いておられるんだろうと思うのです。ですから、各県において郡部において医師の確保が必要だというご主張だと思いますけれども、こういうところはもう少し細かく見ていかないといけないと私は従前より主張させていただいております。ポイントは、40歳未満のお医者さんの数です。40歳未満、こういう方こそ本当に救急医療を支えられるお医者さんでございます。このお医者さんの数を、是非とも各県ともに比べて頂きたい。全国では平成10年から18年まで、この間において大体横ばいです。東京は8%、40歳未満のお医者さんの数は増えております。高知県は2割減少しております。これは何を意味しているかということ、臨床研修制度の見

直しなどの結果として、若いお医者さんは全部都会の方に流れていって行く訳です。逆に言うと、10年後の救急医療が危機に瀕する可能性があるということでございます。これは四国の医師確保の必要性というのは、決して都市部はいいけれど郡部は駄目という問題ではないんであって、もう少し私は危機感が足りないんじゃないのかなと、そういう風に思っております。

3点目は、少し前向きですが、少し手間のかかる提案かなと思っておりますが、まず何より「黒潮洗う四国・南海」輝きプロジェクトという、太平洋側にも目を向けて頂いたことを非常に感謝を申し上げたいと思っておりますけれども、本当にいろいろ潜在力のある地域ですから、それを十分に生かしていきたいと考えております。この四国の強みといったときに、やはりいろんな意味でこの清流、No.3のプロジェクトでございます清流とうるおいの水資源プロジェクトということで、書かれているわけでございますが、これは本当に一つの大きな財産として守っていかなければならないと思います。ただ残念ながら四国の各清流が今、非常に危機に瀕してきている、その美しさが減じつつある、生命力が減じつつある状況ではないかと思っております。端的に言って、濁水問題が非常に今、深刻化しております。吉野川の濁水問題しかり、また物部川などにおきます濁水問題もしかりでございます。四万十川でも深刻であります。もっと小さい河川でも安田川、奈半利川、本県の中でも濁水に悩んでいるところがたくさんございます。清流を守るといいましても、この濁水問題の解決ということ、これは大きく自然にもかかわる大きな課題だけに着実な取り組みを進めていきまないと、四国の中の清流が全て駄目になるんじゃないか、そういう危機感を持っておるところでございます。是非ともこちらについても、こういうまさに広域的な計画においてこそ、そういう問題も取り上げて頂きたいと、そのように考えておるところでございます。私からは以上でございます。

○愛媛県副知事（高浜）

愛媛県でございます。今年の2月に意見交換会が行われた時に、私ども加戸知事が出席をしまして、幾つかご意見申し上げました、提案もさせていただきました。そういう中で、今回の案に、例えばフリーゲージトレインでありますとかフルセットからの脱却といったようなこと、取り上げていただいておりますし、プロジェクトの中でも森づくり、森林保全の関係を上げていただいた。それから、今、高知県知事が言われましたが「黒潮洗う四国・南海」輝きプロジェクト、これは左の西の方に愛媛県南予地域を含んだ形でご検討いただけるものと思っておりますが、盛り込んでいただきました。こういうプロジェクト、まだ具体の取り組みについては、これから検討されるということですから、是非、具体的な方策がここで更に盛り込まれていくことを期待をいたしております。

それで、その上であと2点ばかりお願いは、私どももやはりしつこいですが、橋の料金の引き下げのことは、どうしても申し上げざるを得ません。とりわけ、私どもしまなみ海道は観光橋でありますし、産業橋でもあるんですが、今治市という一つの市の中での市を結ぶ生活橋という側面もございます。是非とも、今後とも引き下げは検討をお願いしたいですし、この計画の中の文言としても高速道路というだけではなくて、本州四国連絡道路の通行料金の引き下げという文言の明記を是非ともお願いをしたいと思っております。

それともう一点ですが、これは以前、加戸知事からお願いをいたしました豊予海峡ルートのことなんです。ちょっと今、勢いがなかなかつかない状況にはございますが、前回、加戸知事からもこういう風にお願いをいたしました。厳しい財政状況がこうやって続いている中で、現時点では実現困難ということは、十分理解をしております。そうではあっても、どうか夢だけは持たしていただきたいというふうな趣旨のお願いを申し上げました。これまでずっと長い間、発端から勘定すると恐らく四十数年にもなっておるんだろうと思うんですが、ずっと夢をつないで来ました。四全総、五全総にもつないで来ました。この夢だけは持たせていただきたい。豊予そうして私どもだけではなくて紀淡あわせてですが、豊予・紀淡海峡ルートというそういう具体の箇所の明記というのは、これは難しいかもしれません。そうでありましても、どうか少なくとも全国計画の記述にもあるとお聞きしてありますが、それに合わせるような表現で、例えば、近畿、九州圏との交流連携の活性化に向けて、海峡部を連結する交通体系について長期的視点から取り組む、そんな表現を盛り込んで頂けないものかなという風に思っております。

是非ともよろしくお願いをいたします。以上でございます。

○四国経済連合会長（大西）

今、4県の知事、副知事からご意見を頂戴しましたが、それ以外の皆さま方でご意見ございましたらどうぞ。

○高知県町村会長（明神）

高知県町村会の明神といいます。この広域プロジェクトの中のNo.2「緑の島四国」の環境を守る美しい森林づくりプロジェクトの中でありますけれども、このプロジェクトの目的、コンセプトの上から2番目のCO₂吸収源の形成という中で、我が国屈指のCO₂吸収源を目指した人工林整備の推進とあります。その下に林業と木材産業の一体的な再生という項目の中で、適切な森林管理のサイクルが機能するように担い手の確保とありますけれども、まずその前に財源の確保がなければ、この適切な森林管理のサイクルができない訳でございます。そういった中で、折しも先月CO₂排出権取引制度の素案が発表されて、現在は各関係省庁で検討されているということでありまして、新聞報道の内容ぐらいしか私は承知しておりませんが、是非ともこの適切な森林管理のサイクルが機能するよう、その中にCO₂排出権取引制度の整備による安定した財源確保、こういった項目を是非とも入れて頂きたいと、盛り込んでいただくように検討して頂きたいと思っております。以上でございます。

○四国経済連合会長（大西）

他にございませんか。

いきなりでもなかなか行きませんかから、先に進めさせていただきますが、また後ほど全体を通したご意見を頂く機会もあると思っております。

ただいま、それぞれご意見を頂戴をいたしました。本日頂いたご意見を踏まえまして、今後、更に事務局と協議会構成員の皆様と調整をさせていただきたいと思っております。皆様のご意見

には、共通項も幾つかございましたので、そういったことも含めて調整をさせて頂きたいと思
います。

4) その他

○四国経済連合会長（大西）

続きまして、議事4のその他について、事務局より報告をお願いしたいと思います。

○事務局

それでは、参考資料-1のスケジュール案について説明をさせていただきます。

資料のスケジュール表の中ほどをご覧下さい。本日の第1回四国圏広域地方計画協議会でご
ざいます。協議会後の予定につきましては、今後、市町村の方々の生の声をしっかり聞きなが
ら計画を策定するため、市町村の方々と実質的な意見交換を実施することとしております。ま
た、中国圏との合同協議会を開催し、連携テーマについて意見交換を行うとともに、学識者会
議を開催し、有識者の皆様からのご意見を頂くこととしております。本日のご議論や、今後、
市町村の方々など多様な主体から頂くご意見も踏まえまして、プロジェクトを含む計画内容の
議論を進めてスケジュール表にありますように、本年度中を目処に市町村提案の対象案につい
て整理をしていきたいと考えております。協議会における計画原案の取りまとめや、最終的な
計画決定の時期については、これらの作業状況を見ながら、来年度の可能な限り早い時期に行
うことを目指していきたいと考えております。簡単ですが、スケジュール案の説明を終
わります。

○四国経済連合会長（大西）

ただいまの事務局の説明につきまして、ご質問などありましたらお願いをいたします。

3時半まで予定の時間を頂いておりますので、本日の全体を通して結構でございますので、
何かご意見等がありましたらお願いいたしたいと思ます。

○愛媛県町村会長（白石）

このスケジュールでいうと、平成21年度中に最終計画ができるのですか。

○事務局

年度内に市町村提案をお願いできるような実質的な取りまとめをしまして、市町村提案の後
できるだけ新年度の早い時期に計画原案を取りまとめて、協議会の皆さんにお諮りしていきた
いと考えております。

○愛媛県町村会長（白石）

14のプロジェクトの説明があつて、どれも四国にとっては非常に大事なプロジェクトであ
りますし、これが全部そのまま実行できれば、まさに四国はすばらしいところになるのですが、
なかなか内容を見るとそうは行かないだろうと思うのです。

四国は一つと言いながら、実際にはなかなか一つじゃないんですね。地形は一つでござい

ますけれども、4つの県民というのは背中合わせてへそ合わさずで、本当にそのとおり県民性というのは非常に違うわけです。その中で、このプロジェクトにもありますけれども、唯一四国の人たちがこのプロジェクトをやって絶対に反対しないというのが弘法大師、空海、つまり八十八カ所に絡んだプロジェクトなんです。私もNHK時代に空海の展覧会を過去2回やりましたけれども、2回とも大盛況でございまして、単に四国内だけじゃなくて四国外からも空海にまつわるイベントをやると必ず人が集まるという歴史があるのです。そういう意味で、やはり四国の人々が一つになるイベントは、あるいはプロジェクトは何かというと、このNo.9の四国霊場八十八カ所と遍路文化、世界遺産には残念ながらまだちょっと時間があるようではありますが、やはり、大事なことは、四国の人たちが地域だけじゃなくて人間として住んでいる住民として、できるだけ一体感を持つようなプロジェクトから先にやらないと。これ全部大事なんですけれども、それぞれやはりジャンルがあるんですよ。例えば「黒潮洗う四国・南海」と、これはもうまさに太平洋側でございまして、島嶼部をつなぐといえば瀬戸内海でございまして。そういう意味では、できるだけこの実施に当たって、これをつくる以上は実施をしないと意味がない訳ですから、実施に当たってはできるだけ四国の人たちが全て入れるような、そういうプロジェクトを優先的に実施をしていく必要があるのかなという感じが、このプロジェクトを見て思いましたので、一つ言わせて頂きました。

○香川県知事（真鍋）

急ぐわけではないですが、この計画ができて、どのように実行していくのかということで、資料-1の一番最後に「計画の進行管理」と、こう簡単に書いてあるのですが、やはり先立つものとして、財源の話が出ましたけれども、この計画を実施するために何か数値目標みたいなものを示されて進行管理をすると書いてありますが、やはり裏づけるものがないとなかなか進まないと思います。その辺は、何か特に全国的な問題だろうと思うのですが、どういう風に考えているのか、今、何かお考えがあればお聞かせ頂けたらと思います。

○国土計画局広域的地域活性化推進室長（沓澤）

国土交通省国土計画局の広域的地域活性化推進室長をいたしております沓澤でございます。今ご指摘いただいた点でございますが、まさしく全国的な問題でございます。もちろん、計画の内容を策定するだけではなくて、この計画の実行的な推進ということにつきましては、十分、今後ともこの計画の、現在は中間整理の段階ですけれども、その具体化といいますか計画の最終案の策定に向けまして、皆様方とも十分話し合いながら議論してまいりたいという風に考えております。

○四国経済産業局長（徳増）

四国経済産業局長の徳増でございます。個々の計画については、是非、皆様方が言われるとおり実行に向けて進めて頂きたいと思うのですが、その位置づけについて1点だけ私どものほうで、こういうことも考えたらどうかなという点を話させていただきたいと思います。

それは、四国が社会的潮流あるいは四国の特性として、少子化・人口減少あるいは高齢化と

いうものが、全国に先駆けて進んでいくということです。これは四国のみの問題ではなくて、当然、日本社会が抱える先進的な課題であり、世界に通じていく課題です。そういう局面において、いかに産業の活性を保ち維持し生産性を高めていくのか、農林水産業といった不可避な産業をそういう社会情勢の中でいかに抱えていくのか、新しい社会情勢に適合したコミュニティーのあり方、それらを支えていくコミュニティービジネス、ソーシャルビジネスこういったようなものをどうつくっていくのか。そういうことに対するイノベーションを進めていくということは、単なる四国の問題ではなく、日本社会全体にとって非常に重要な位置づけを持つわけでございます。そうしますと今、真鍋知事からあった財源のみならず、さまざまな社会的リソースや社会的枠組みを、こうしたことの実現に向けて社会実証として行っていくということが非常に重要であります。財源、制度、規制、こういったようなもの全てにわたり特別な実証エリアとしての配慮みたいなものをするのが、四国圏のためというより日本社会の明日のために極めて重要であるということ。四国圏の計画でございますので、四国圏の中でどう取り組むかということを中心に整理されると思いますけれども、どこかに、国全体としてもそういった実証的取り組みに対するさまざまな視点からの配慮ということが重要になってくるんだというようなことに少し触れておいてもいいんじゃないかなと、こういう風に思いましたので、個々の問題というよりは全体の位置づけの問題ではありますけれども、意見として述べさせていただきます。

○四国経済連合会長（大西）

他にございませんか。

それでは、本日は皆様方から広域地方計画につきまして、熱心なご意見を頂きまして大変ありがとうございました。本日の議論を踏まえまして、市町村など地域の多様な方々のご意見も拝聴しながら、本年度中を目途に計画内容の実質的な詰め作業を進めてまいりたいと考えております。先ほど、スケジュールのところでご紹介申し上げましたようなことで、進めていきたいと思っております。次回の協議会の開催につきましては、これらの作業状況を見ながら調整をしていくことといたします。

これにて本日の議事はすべて終了しました。

司会を事務局へお返しいたします。

3. 閉 会

○四国圏広域地方計画推進室長（油谷）

大西会長ありがとうございました。本日は長時間にわたりまして、さまざまな観点から具体的ご意見、ご提言をいただきまして、誠にありがとうございました。今後にご説明いたしましたように、市町村などの地域の方々のご意見なども頂きながら作業を進めていくこととなりますけれども、本日頂きました貴重な示唆に富むご意見を踏まえまして、今後の策定作業をさらに進めてまいりたいと思っております。

これにて第1回四国圏広域地方計画協議会終了させていただきます。ありがとうございました。